

## 「インドにおけるジェンダーとスポーツ政策」

担当 川口 章・川井 圭司 / 秋学期

### 【概要】

本演習は、2023年2月に実施を予定しているインド海外フィールドワーク（FW）に関心を持つ学生を対象として、その事前学習を主たる目的として開講する。

インド海外FWでは、JICA海外協力隊員として活動する本校ラグビー部員の赴任先であり、かつ政策学部の学術提携先でもある、オディシャ州ブバネシュワルの Kalinga Institute of Industrial Technology (KIIT) と、Kalinga Institute of Social Sciences (KISS) を始め、タミルナドゥ州チェンナイ、首都のニューデリーにおいてそれぞれフィールドワークを行う。そして、ジェンダーとスポーツを切り口としつつ、教育、政治、経済など多方面からインドという国を広く学び、理解を深めることを目的とする。

チェンナイでは独自のタミル文化に触れ、その歴史的背景を学びながら異文化理解を深める。またブバネシュワルでは、KIITの学生との学術交流に加え、JICA海外協力隊員として活動するラグビー部員との共同プロジェクトを企画し、現地の子供らとの文化交流やスポーツ交流を実施する。また、最終目的地となるニューデリーでは、JICAインド事務所、在インド日本国大使館等においてプレゼンテーションや発表の機会が設けられる。

以上のFWを有意義でかつ実効性のあるものとするため、事前学習では、各受講生が自らの興味関心から主体的にインドに関する調査を行い、その成果を発表するという演習形式で授業を展開する。これにより、インドの歴史、経済、教育、宗教観、スポーツ、文化、ジェンダー、日印の関わりなどについて基本的な知識を得る。同時に現地での学術交流および共同プロジェクトの準備を進める。加えて、インド研究者、JICA関係者、インド企業経営者らをゲストとしてお招きし、インド社会の実態や社会課題について学びを深める。

## 「持続可能な社会について学際的に考えるー法律と経済の側面からー」

担当 大島 佳代子・川上 敏和 / 秋学期

### 【概要】

国連が掲げる SDGs 持続可能な開発目標には、学際的な視点がかなりの比重で盛り込まれている。それは政策学部の学習目標とも重なる部分が多く、本学部においても積極的に関わるべき課題と思われる。一方で、SDGs には目標やその達成度合いを測る指標は明示されているものの、どのように目標を達成するのかという手段は必ずしも明確にされていない。その手段として有力な選択肢は、宇沢弘文の構想した社会的共通資本ではないだろうか。社会的共通資本はいわゆる公共財を指すと誤解されることが頻繁であるが、宇沢氏の著作をひも解くと、これまでの私有財産制や資本主義・市場経済システムという社会の制度や経済運営方法に重大な変更を迫る極めて大きな概念であることが分かる。ただし、社会的共通資本という考え方は、上に述べた誤解が示すように、まだまだ人口に膾炙したとはいいがたく、議論の余地が大きい。加えて、それは法や制度と経済にまたがる領域を占めるものでもある。社会的共通資本に関連する宇沢氏の著作を読み進めながら、法律と経済の専門家の双方から、宇沢氏の構想について考察し、参加学生とのディスカッションを通じて、持続可能な社会の可能性について学際的な検討を試みることが本演習の目的である。

既存の学問分野では解決が困難な課題に挑む目標が掲げられているため、政策学部では何を学ぶのかという問いが本学部生諸君に投げかけられるのは宿命のようなものである。そのとき、具体的な形を持った解答の1つとして本演習はありたいと願っている。現在履修中の分野やゼミを問わず、多くの学生さんに気軽にご参加頂き、研鑽の場をご提供できれば幸いである。